

製品安全データシート

作成: 2014年3月24日
改訂: 2014年12月15日

1. 製品及び会社情報

製品名 : 理研ソリスト顆粒水和剤
会社名 : 株式会社理研グリーン
住所 : 東京都台東区東上野4-8-1
担当部門 : 研究開発部 企画開発課
電話番号 : 03-6802-8587
FAX番号 : 03-6802-8303
緊急連絡先 : 同上
推奨用途及び使用上の制限 : 農薬

2. 危険有害性の分類

最重要危険物有害性及び影響

GHS分類

物理化学性危険性	自己発熱性化学品	: 区分外
	自然発火性固体	: 区分外
	可燃性固体	: 区分外
	水反応可燃性化学品	: 区分外
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	: 区分外
	急性毒性(経皮)	: 区分外
	急性毒性(吸入: ミスト)	: 区分外
	皮膚腐食性/刺激性	: 区分外
	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	: 区分外
	皮膚感作性	: 区分外
	生殖細胞変異原性	: 区分外
	生殖毒性	: 区分外
	特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	: 区分外
	特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	: 区分1(肝臓、腎臓、膀胱、心臓)
環境に対する有害性	水生環境有害性(急性)	: 区分1
	水生環境有害性(慢性)	: 区分1

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素
絵表示



注意喚起語 危険

危険有害性情報

- ・長期にわたる、又は、反復ばく露によるにより臓器(肝臓、腎臓、膀胱、心臓)の障害
- ・水生生物に非常に強い毒性
- ・長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

- ・使用前に説明書を入手し、安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

- ・粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- ・環境への放出を避けること。
- ・取り扱い後はよく洗うこと。
- ・指定された保護具を着装すること。

【応急措置】

- ・気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。
- ・漏出物を回収すること。

【廃棄】

- ・内容物、容器を法、条例に従って安全に処理する。または、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理する。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

化学名：3-[(5-ジフルオロメトキシ)-1-メチル-3-(トリフルオロメチル)ピラゾール-4-イルメチルスルフォニル]-4,5-ジヒドロ-5,5-ジメチル-1,2-オキサゾール／一般名：ピロキサスルホン

成分及び含有量：ピロキサスルホン	85.0%
鋳物質微粉 界面活性剤 等	15.0%

化学式： C₁₂H₁₄F₅N₃O₄S／ピロキサスルホン

官報公示整理番号： 安衛法 8-(7)-1432 ピロキサスルホン

C A S No. : 447399-55-5 / ピロキサスルホン

4. 応急措置

目に入った場合：直ちに清浄な流水で十分に洗眼し、医療措置を受ける。

皮膚に付着した場合：汚染した衣類、靴などは速やかに脱ぎ捨て、製品が付着した部分を水又はぬるま湯で十分に洗い流し、石鹼を使って洗浄する。

吸入した場合：被災者を直ちに新鮮な空気のある場所へ移動し、衣服をゆるめて深呼吸させる。汚染された衣類や保護具を取り除く。多量に吸入した場合は、医療措置を受ける。

飲み込んだ場合：口の中に残っているものはぬぐったりして除去した後、多量の水や牛乳を与えて吐き出させる。ただし被災者に意識の無い場合はものを与えたり、吐き出させたりしてはならない。

5. 火災時の措置

消火方法：初期の消火には粉末、不活性ガス消火器、乾燥砂などを用いる。大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。

消火剤：水、強化液、泡、不活性ガス、ハロゲン化物、消火粉末を放射する消火器

消火活動上の注意：燃焼又は高温により有毒なガス（硫黄酸化物、窒素酸化物等）が生成するおそれがあるので、呼吸 保護具を着用する。消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

6. 漏出時の措置

作業員に対する注意：屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。作業の際には保護具（暴露防止措置欄参照）を着用し、粉塵、飛沫等の皮膚への付着や、吸入を防止する。

環境影響に対する注意：飛散、流出した製品が、環境への影響を起ささないように注意する。

流出物の処理に対する注意：飛散したものを掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。真空掃除機で吸い取るなど粉塵が飛散しない方法で取り除く。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い上の注意：保護具を着用し、取扱いは換気のよい場所で出来るだけ風上から作業を行い、漏れ、あふれ、飛散がないようにし、みだりに粉塵を発生させない。

火災・爆発の防止：通常の保管方法で問題無し。

保管上の注意：直射日光が当たらない乾燥した冷暗所に保管し、異種物質の混入を避け、火気、熱源から隔離する。

8. 暴露防止措置

設備対策：取り扱いについては、密閉された装置、機器を使用し、局所排気装置を併用する。

有害物が環境中へ放出されないように、排気装置には除害設備を設ける。

保護具 呼吸用保護具：防塵マスク、簡易防塵マスク

保護手袋：ゴム手袋

保護眼鏡：側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型

保護衣：作業着（長ズボン、長袖）、帽子、保護服

9. 物理・化学的性質

外観等	: 淡褐色水和性細粒
臭い	: データなし
pH (5倍希釈液)	: 9.0(参考値)
融点・凝固点	: データなし
沸点・初留点及び沸騰範囲	: データなし
引火点	: データなし
発火点	: データなし
燃焼性	: データなし
燃焼又は爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度	: データなし
蒸発速度	: データなし
密度・比重	: 0.72(参考値)
溶解度	: データなし
オクタノール／水分配係数	: データなし
分解温度	: データなし
粘度	: データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	: 通常の保管環境下で安定
危険有害反応可能性	: データなし
避けるべき条件	: データなし
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: データなし

11. 有害性情報

急性毒性（経口）	: ラット(♀) LD50	2,000 mg/kg 以上
急性毒性（経皮）	: ラット(♂ ♀) LD50	2,000 mg/kg 以上
急性毒性（吸入：蒸気）	: データなし	
急性毒性（吸入：粉じん）	: ラット(♂ ♀) LC50	5.8 mg/L以上
皮膚腐食性／刺激性	: ウサギ	軽度刺激性だが区分される評点に満たない。
眼に対する重篤な損傷／刺激性	: ウサギ	中等度の刺激性だが区分される評点に満たない。
呼吸感受性	: データなし	
皮膚感受性	: モルモット	感受性なし
生殖細胞変異原性	: 分類される物質を含まないため区分外とした。	
発がん性	: ピロキサスルホンが分類できないため、混合物としても分類できない。	
生殖毒性	: 分類される物質を含まないため区分外とした。	
特定標的臓器／全身毒性（単回暴露）	: 分類される物質を含まないため区分外とした。	
特定標的臓器／全身毒性（反復暴露）	: 反復投与により、区分1に分類される投与量で肝臓、腎臓、膀胱、心臓に	

影響があるため区分1とした。

吸引性呼吸器有害性 : データなし

1 2. 環境影響情報

以下の知見から、水生生物に対する毒性は区分1と考えられた。

生態毒性 魚 : (コイ)LC₅₀ >1000 mg/l (96時間)
甲殻類 : (オオミジンコ)EC₅₀ >1000 mg/l (48時間)
藻類 : EC₅₀ 0.00263 mg/l (72時間)
残留性/分解性 : 土壌残留半減期:約20日
生体蓄積性 : データなし(ピロキサスルホンのLog Pow=2.39であり濃縮性は低いと考えられる)
土壌中の移動性 : データなし
その他 : 除草剤であり、植物に影響がある。

1 3. 廃棄上の注意

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。洗浄水等は、凝集沈殿、活性汚泥などの処理により清浄にしてから排出する。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後処分する。都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。

1 4. 輸送上の注意

輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。車輛、船舶には保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を備える他、緊急時の処理に必要な消火器、工具などを備えておく。

国連分類 : クラス 9 (有害性物質) 容器等級 3
国連番号 : 3077(環境有害物質、固体)

1 5. 適用法令

農薬取締法 : 登録番号 第23496号(理研グリーン登録)
消防法 : 非該当
労働安全衛生法 : 非該当
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) : 非該当
毒物劇物取締法 : 非該当

1 6. その他

記載内容は、現時点で入手できた資料・情報に基づいて作成しておりますが、危険・有害性等に関して、いかなる保証をなすものではありません。注意事項については通常取り扱いを対象としたものであり、特別な取り扱いをする場合は、用途・用法に適した安全対策を講じて下さい。危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取り扱いには十分注意して下さい。

使用に当たっては、ラベルの注意事項を良く読んで下さい。

引用文献:1)JIS Z 7252:2009 GHSに基づく化学物質等の分類方法

2)GHS対応ガイドライン 製品安全性データシート作成指針

2012年6月 一般社団法人 日本化学工業協会

3)農薬中毒の症状と治療法 第13版 平成22年4月 農薬工業会